

河越城築城の背景

河越城は今から五百五十年前、室町時代中期の長禄元年（一四五七）、扇谷上杉持朝の命を受けた、太田道真・道灌父子によって築城されました。

室町時代の初期は、関東地方を治める権限を持つ鎌倉公方足利氏を中心に、山内・扇谷の両上杉氏が補佐して、鎌倉を拠点に関東地方を支配していました。

しかし、時代がたつにつれ、鎌倉公方と両上杉氏の関係は悪化していきます。享徳三年（一四五四）に起こった享徳の乱により、対立は決定的なものになりました。また、上杉氏どうしの対立も始まり、享徳の乱以降の関東地方は、三者が互いの勢力争いを各地で繰り返す内乱状態となりました。この乱の影響で鎌倉公方足利成氏は、康正元年（一四五五）に拠点を下総国古河（現在の古河市）に移しました。鎌倉公方はこれ以後、古河公方と呼ばれるようになります。

武蔵地方を支配していた上杉持朝は、古河公方のこの動きに対抗するため、二年後の長禄元年に、河越・江戸



の両城を築城しました。河越城は主に扇谷上杉氏の当主が居城し、古河公方に対抗するための拠点として、また、武蔵地方を支配するうえでの要として、重要な役割を担っていました。江戸城は、主に太田道灌が居城し、河越城の支城的性格を持っていました。

世界の国から、こんにちは！



中国／愛華さん

日本に来て20年、川越に住んで10年がたちました。私のふるさは、内モンゴル自治区のフフホトです。高原にあり、冬は氷点下20℃くらいまで気温が下がるため、とても寒いのですが、夏は涼しく過ごしやすい所です。

日本留学を経験した父から話を聞いているうちに日本に行きたいと思うようになりました。現在、大学で比較文化の研究をしています。内モンゴルのことを日本の皆さんに、また、日本の伝統文化を内モンゴルの人たちに伝えていきたいと考えています。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは10ページ・11ページ、相談は19ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

どんぐり

編集後記

暖冬のせいか、関東周辺のスキー場の閉鎖、白樺湖名物の氷上ワカサギ釣りができない、さっぽろ雪まつりの氷像が解けたなどのニュースが届いています。先日、国連から地球温暖化に関する報告が発表されました。このまま化石燃料に依存し続けると、今世紀末には20世紀末と比べ、平均気温は最大で6.4℃、海水面は59センチ上昇すると予測しています。市では、環境問題について積極的に取り組んでいます。私も今後、温暖化防止に向けた活動に取り組んでいきたいと思えます。そして、四季を感じる生活を営み続けたいものです▶2月3日・4日、茶室の改修を終えた市指定文化財の山崎家別邸が特別公開されました。約4千人もの多くの市民や観光客の皆さんが訪れ、文化財に対する皆さんの関心の高さがうかがえました。